

## 平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	02	01	17	0401	国内友好都市交流推進事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-3	生涯学習の推進			
	施策	3	国際都市の推進			
目的	友好都市（神奈川県平塚市・青森県十和田市）との都市交流を推進する。					
対象	花巻市民・友好都市市民					
意図	友好都市間の交流を促進する。					
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
○友好都市との交流 花巻市友好都市交流委員会補助 少年少女交流キャンプ、市民ツアー、神輿団体との交流などを実施						
市民参画の有無 [ 対象外 ]						
市民協働の形態		○ 共催 後援・協賛		○ 補助・助成		
				○ 委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①	友好都市交流事業実施回数	回	計画	20	20	
			実績	28	29	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①	友好都市交流事業参加人数	人	目標	400	450	
			実績	508	430	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
・記念事業はなかったものの、前年度に引き続き交流が活発に行われるように啓発等に努めた。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・市が取り交わした友好都市提携盟約書に基づいて進めている事業であり、公共関与は妥当である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
見直し余地がある 妥当でない		
有効性	成果の向上余地	・事業の内容の見直しや、交流を呼びかける周知方法を充実させるなどの余地がある。
	<input type="radio"/> 向上余地がある 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・友好都市との交流を広げるための事業費としてこれ以上の削減は、事業の縮小につながるため削減の余地はない。 ・職員は、企画と実施を行っており外部に委託することのできないため削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある 人件費の削減余地がある	
	<input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	・交流事業の参加者は、小学生・市民とも市内全域から募集しており、受益機会は均等である。
	受益機会の見直し余地がある 費用負担の見直し余地がある	
	<input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
前年度に引き続き多くの市民の交流が行われるように、花巻市友好都市団体交流助成の利用や友好都市の情報発信するなど啓発に努め、市民の各層、様々な団体が友好都市との交流を進めることにより、友好都市の文化を学び、自分たちの文化を再認識することができる。		

平成 27 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 生涯学習部 課名 国際交流室 担当者 牛崎 充人 内線 407

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

(単位：千円)

会計	款	項	目	事業コード	事業名
1	02	01	17	0401	国内友好都市交流推進事業

単位：千円

		26年度 決算額(A)	27年度 決算額(B)	28年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		1,668	1,287		
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	1,668	1,287		

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------	------	-----------------

部重点施策における目標  
生涯学習の推進に努めます。

事業開始の背景・経緯  
平塚市とは、「平塚休養の郷」の締結を経て、昭和59年に友好都市提携を結んだ。  
十和田市とは、新渡戸稲造氏の先祖が花巻から十和田へと移り住み灌漑事業を成功させたことによる縁で平成元年に友好都市提携を結んだ。

事業概要  
○友好都市との交流  
花巻市友好都市交流委員会補助  
少年少女交流キャンプ、市民ツアー、神輿団体との交流などを実施

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等  
・補助金を交付している「花巻市友好都市交流委員会」の事務局を市（国際交流室）が持っている。  
友好都市の平塚市・十和田市の両市とも、同様の組織によって友好都市交流事業が行われ、また、事務局を市の担当課が受け持っているのも同様である。市民が主体となって交流事業を進めていくことが望ましい姿を考える。

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。  
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



- 花巻市友好都市交流委員会が実施する事業への補助 1,241千円
  - (1) 交流活動の促進（芸術・文化、スポーツ、祭り、イベント、観光・物産）
  - (2) 少年少女交流事業の実施
    - ① 友好都市少年少女マリン交流への参加
    - ② 少年少女交流キャンプの実施
    - ③ 音楽交流会への参加
    - ④ ホームステイ交流の実施
  - (3) 友好都市の紹介・情報提供事業の実施
  - (4) 市民ツアーの実施（平塚市、十和田市へ）
- ホームステイ交流にかかる随行職員旅費 46千円  
平塚市と本市との間で隔年で開催している、小学生を対象としたホームステイ交流事業。  
夏に本市の児童が、平塚市の家庭にホームステイをし、その平塚の家庭の児童を冬に花巻の児童の家庭がホストファミリーとして受入を行った。